

## 酒巻十四号墳出土埴輪

国指定重要文化財 行田市郷土博物館所蔵

昭和62年度に行われた酒巻14号墳の発掘調査で人物埴輪10点、馬形埴輪4点、円筒埴輪79点、朝顔形埴輪2点、太刀や鞍形埴輪などの残欠という大量の埴輪が出土しました。特に背中に旗を立てた馬形埴輪は国内唯一の出土例であり、他にも襦袢を締めた力士埴輪や、冠を装着して袖の長い服を着た男性の埴輪など、特徴的な埴輪が見つかりました。

見つかった埴輪の多くはバラバラの状態です。出土したため、市教育委員会による資料整理により接着剤で接合され、欠損部分は石膏で補って形が復元され、郷土博物館の主要な展示資料となりました。そして平成7年に県指定文化財となり、同19年には「埼玉県酒巻十四号墳出土埴輪」という名称で95点が国指定重要文化財となりました。

重要文化財指定を契機として、今後の保存や展示に向けて強度を保つためにも、平成20年から文化庁の指

導のもと埴輪の本格的な保存修理が実施されました。期間は5年間で修理の対象となったのは人物埴輪10点と馬形埴輪3点、円筒埴輪1点、朝顔形埴輪1点の15点です。

埴輪は修復の専門業者の元に運ばれ、そこで接着剤や石膏を除去し解体されて出土当時の状態に戻されました。埴輪をアセトンの充填した容器に入れて、接着剤を緩め本体を傷づけないよう慎重に解体されました。そこから一度仮接合を行い各部位の位置などを確認した後、エポキシ樹脂で本接合を行いました。欠損部分は文化庁と協議の上、充填箇所を決めてエポキシ樹脂で復元し、実物と違和感がないように彩色しました。修復により全体の

ゆがみが修正され、埴輪の製造当時の形が蘇りました。

歴史資料の保存修復は貴重な資料を後世に伝えるとともに、展示などの活用機会を広げ、多くの方々にその価値や背景にある歴史や文化を知ってもらうことができます。そのためにも、今後もさまざまな資料の修復を行っていく必要があります。

（郷土博物館 鈴木紀三雄）



筒袖の男子埴輪

修復前

修復後

（郷土博物館 鈴木紀三雄）

## 行田観光ボランティア会

市内観光資源の活用と再発見を図りながら、自然や歴史、文化など、本市の魅力を市内外に発信しているのが行田観光ボランティア会です。

同会は平成10年4月に発足し、昨年、活動20周年を迎えました。現在は28人の会員が所属し、観光案内所を通じて無料でガイドを引き受けています。忍城址や埼玉古墳群、足袋蔵の街並みといった定番コースの他、万葉歌碑やテレビドラマのロケ地巡りなど、利用者の幅広い要望にきめ細やかに対応しています。また、蓮の開花時期になると、毎朝、会員5人ほどで古代蓮の里に常駐。観光客に気軽に声を掛けながら、蓮の一生などについて説明しています。

こうした懇切丁寧な案内は大好評で、ガイド依頼は年間110件以上、利用者は約3,000人になっています。そして、これらの実績が評価され、平成28年には、観光客に感動してもらえるおもてなしを実践する団体などに贈られる「埼玉県おもてなし大賞」の奨励賞を受賞しました。

「ガイドを受けた方々からのお礼の手紙や『また来るよ』の一言がこの上ないやりがいです。さらに会員が増え、活動の喜びを分かち合いたいですね」と笑顔で語ってくれた会長の清水威男さん。同会の心こもったおもてなしがさらに多くの人に喜ばれ、行田ににぎわいをもたらしてくれることでしょう。

【会長】清水 威男 【電話番号】559-0683

## つながる ひろがる みんなのチカラ

～市民公益活動団体紹介～(27)



発足時から継続している蓮のガイド

### 今月の表紙

2月14日、利根大堰下流で、(独)水資源機構利根導水総合事業所による「サケ稚魚放流会」が開催されました。

荒木小学校4年生32人が、コップに入ったサケの稚魚をそと利根川へ放ちました。大海を目指し、勢よく泳ぎ出すサケに思いを巡らせるように、子供たちはいつまでも川面を見つめていました。

市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)まで。

市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。

市報をダイジ版に録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)までご連絡ください。



環境にやさしい  
植物油インキ

市報ぎょうだは  
再生紙を  
使用しています